

2016年度第2回SGH運営指導委員会

日時：2016年11月19日（土）16:00～17:00

会場：同窓会館会議室

参加者：＜運営指導委員＞ 米田伸次 日本ユネスコ協会連盟理事・朝野富三 宝塚大学特任教授
＜関西創価高校＞ 武田学園長・中西校長・榊田副校長・千葉一夫総合寮長
＜管理機関代表＞ 太田総二郎創価教育センター長・狩野俊一創価教育センター参事・
杉本規彦創価教育副センター長

＜校長挨拶の要旨＞

本校のSGH中間研究発表会にご出席いただき、また、ご講演ならびにご講評をいただき、心から感謝申しあげたい。また次への力をいただいたものと思う。

1年生・2年生は、この同じ時間帯で昨年見ていただいたようなGRITを、各クラスで、生徒たち、それから担任も入って行っていた。

今回の模擬国連については、この3年間のSGHAも含めての集大成として、3年生が取り組んだが、この後、彼らは論文作成に挑戦する。今回の模擬国連で学んだこと、プラス、3年間で自分たちが興味・関心を抱いたことをテーマにそれぞれが論文を作成し、さらにそれを最終的に英語のサマリーにまとめて、学園に残して卒業していく。後輩に、こうやってSGHの自分たちの取り組みがさらに続いていけるようにと、今日の模擬国連のノウハウも、議長を務めた4人の女子プラス各クラスの中心者が全部ストックしている。来年の後輩は今回のような苦労をしなくてもいいようにとデジタル化して資料を作っている最中である。

最終報告会に向けて、加えて来年度・再来年度へ向けて、ぜひ厳しいご指導を賜りたい。

＜運営指導委員よりいただいたご助言・ご指導の要旨＞

○せっかくここまでされているので、これをどういう風に他のところに伝えていくかの取り組みを考えていかれたらどうか。例えば、You Tubeにupするなど、多くの方に知ってもらう方法を考えるべき。これほどの取り組みをしているわけだから、他に対する刺激としても参考としても、その広げ方を一度考えていただきたい

○東京の創価高校が正式にSGHになったと聞いたので、兄弟校との連携も進めるべき。外に対して見える形で東西の連携と高大の連携をやってはどうか。

○今日の模擬国連は本当に感動した。最後にチョウドリ元国連事務次長に伝えると聞き、素晴らしいと思った。専門家から見れば非常に素朴な提案や意見かもしれないが、これだけ生徒たちが一生懸命に取り組んだのだから、やはり日本の若者達がこう考えていたのだということをいろんなチャンネルを使って伝えていくということは重要なことであると思う。SGHとしての取り組み、教育としての取り組み、若者が取り組んだ成果を、いろいろなところで生かしていくという工夫をお願いしたい。

○生徒たちだけがいろいろとデータ集めてやっているだけではなく、裏付けとしてJICAの出前授業を

うまく活用した点に感銘を受けた。

○関西創価高校の SGH の取り組みは全校の取り組みとなっていて素晴らしい。一部の生徒、一部のところでの実践ではよくない。今日の模擬国連もそうだが、全員参加で、学校全体が教職員そして生徒が一体となって取り組んでいるというこの姿勢、取り組みが特筆すべきことだ。また今日の模擬国連一つとってみても、生徒たちが主体的に自覚してリードしている。先生方は言いたいこともあると思うが、生徒を信頼し責任を持たせている。それゆえ、主体的に生徒たちが取り組んでいる、こういうところは関西創価高校独特の素晴らしいところであると思う。

○生徒の変容が見えた。今日の葉票会で広島へ行った生徒たちの発表に、フロアからの質問を許可された。フロアからの生徒への質問というのは普通あまりないもの。生徒たちもその質問に堂々と受け答えをしていた。ここに変容の一端があると思う。大変素晴らしかった

○学校のある交野から世界へという点を具体的に現す必要がある。地域で学び、地域でのさまざまな出会いの中で学ぶことが今後の課題。違う学校の同じ世代の人とのかかわりを作っていくことが必要である。同じ世代の高校生が、寝泊りしながら語り合い、学び合う体験があってもいいのではないか。今日の発表を見ていても、関西創価高校の生徒たちは非常に素晴らしい。だからこそ、同世代のいろんな仲間がいるということを知ることが、さらなる成長のためには必要だと思う。

○創価学園というのは、使命とか理念というものを共有するわけだから、ある意味で均質化してしまう。変わるためには、違うもの、異質なものとの中で、考えたり悩んだり迷ったりしながら変わっていく。上に変わるというものもあるが、横に変わるという部分の両方が必要かもしれない。地域との連携、学園以外の同じ世代の人たちとの交流をどのように広げていくかという努力が必要かもしれない。

○これからの教育で一番大事なことは子どもを信頼してチャレンジさせること。一人一人皆に可能性がある。その可能性を引き出すことこそ 21 世紀の教育であると思う。一人一人を変えていくことが、社会を変えていくことになる。皆に可能性がある。今日の模擬国連も、生徒を信頼してさせたという、この学校の勇気とチャレンジを賞賛したい。